

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2015 年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2016 年 4 月 1 日 提出

1. 研究課題名	
中世語彙画像対照データベースの構築に関する基礎研究 (英文標記:A Research on the Construction of a Database on Medieval vocabulary and Its Visual Presentation)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
楊 暁捷 (やん しょおじえ)	カナダ・カルガリー大学
3. 研究分担者 (合計: 1 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
赤間 亮	立命館大学 教授
4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)	
<p>デジタル環境の発達は、歴史や文学などの分野における古典の研究に新たな可能性と、かつてない課題をもたらした。本研究は、絵巻解読や研究の基礎環境を整えること目指し、これまで存在しなかった内容や様式の情報を作成しようとする。とりわけ同じテーマをめぐる詞書と画像という異なる表現媒体を併せ持つ絵巻の構成に着目し、中世の語彙と画像との対照を明らかにし、デジタル環境を用いる縦横に検索するリソースを研究者や絵巻の読者に提供する。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)	
<p>中世の語彙への同時代人々によるビジュアル的な解釈、中世文献にみる言葉と画像との両方の対応のあり方を探るための基礎的なアプローチとして、インターネット特設ページ「古典画像にみる生活百景」(http://people.ucalgary.ca/~xyang/hp/hp.html)を設計・作成し、公開した。現在オンラインで高精細デジタル画像で公開利用されている日本の古典画像から、あわせて三十七作品(十一の所蔵機構)を対象に、百の場面を選択した。日々進化しているデジタルリソースの利用の可能性を模索するとともに、ひろく歴史や古典文学教育のための参考になり、広く古典画像への距離を減らすことに寄与しようとするものである。</p>	
6. 研究業績	

(3) 研究発表等

Painting in Medieval Discourse
Japan Studies Association of Canada JSAC 2015 Annual Conference
Canadian Embassy, Tokyo, Japan
May 20, 2015
(査読あり)

古典の絵と言葉のリンクを求めて
ARC Week
立命館大学アート・リサーチセンター
2015年7月25日

中世の風景を覗き見る
ー「古典画像にみる生活百景」の試みー
「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」2015年度成果発表会
立命館大学アート・リサーチセンター
2016年2月20日